

もっと知りたい
ふるさと

10

千曲市指定史跡

塚穴古墳
つかあなこふん

塚穴古墳は、稲荷山篠山の標高五一〇メートル、通称「陣ヶ窪」と呼ばれている山腹にある古墳で篠山から東南東に伸びた支脈の突端近くにあります。

また、塚穴古墳の北側には、越將軍古墳があり、両古墳とも、稲荷山・桑原地区を眼下に、南西側に聖山・冠着山を望み、東側に千曲川を見下ろす景勝の地

にあります。

塚穴古墳は山腹の小さなテラスの先端に築造された円墳で、墳丘の裾が一部削り取られていますが、大部分は当初の墳丘を残しています。

墳丘は実測の結果直径一五メートル、高さは谷側から三メートル、山側から約一メートルです。

内部構造は、真南に向けて開口する横穴式石室で、玄室は完

存しています。

羨道部と天井石を失い、石室の規模は玄室の長さ五メートル、奥壁幅二・七メートル高さ二・五メートルとなっていますが、羨道部幅の長さは、当初は四メートル近くあったものと考えられます。奥壁は大石を二枚並べ、上に横長の石を積んで構成し、側壁は基部

に横長の面の大石を据え、隙間を小石で塞いでいます。天井石は五枚で、玄室と羨道の間は西側から袖石を出し、さらにその上部に梁石を渡して、玄室を区画しています。

石室の平面形は、羽子板状の両袖がある横穴式石室で、側壁の下部から上方

を持ち送りにしているのは、この地方特有のものです。

(約千四百年前)にかけてのものと考えられます。

塚穴古墳は、高所(山上)に築造された横穴式石室を持つ古墳で、出土品はありませんが、石室の形などから、六世紀後半(約千四百五十年前)〜七世紀代

市内で高所に横穴式石室を設けた古墳は坂山古墳(土口)、堂平古墳(土口)、大岩古墳(寂蒔)等がありますが、塚穴古墳は羨道の一部を破壊しているだけで、古墳も石室もよく残されています。



玄室(注1)から羨道(注2)

内部構造は、真南に向けて開口する横穴式石室で、玄室は完



入り口

森將軍塚古墳館
学芸係
小野 紀男

(注1)横穴式石室の納棺室
(注2)玄室への通路



奥壁